

5 月定例所長会見における高橋所長挨拶内容

所長の高橋でございます。本日、私からは 2 点申し上げます。

まずは、「発電所の耐震安全性評価」についてです。

当社は、経済産業省原子力安全・保安院からの指示に基づき、発電所の安全上重要な設備について、耐震安全性の確認作業を進めております。このうち、地質・地質構造に関する調査につきましては、適宜、調査状況を国の審議会へ報告するとともに、その際に頂戴したご意見等を踏まえ、調査結果のとりまとめを行ってまいりました。今週の 5 月 12 日には、これまでに報告してきた陸域と海域における活断層の評価結果を、中間報告書としてとりまとめ、国へ提出いたしました。

今回の活断層評価結果の概要を申し上げますと、陸域につきましては、長岡平野西縁断層帯を構成する活断層のうち、角田・弥彦断層、気比ノ宮断層、片貝断層に関しましては、それぞれ単独で活動する断層と考えております。しかしながら、各断層が近接していることから、耐震安全性評価においては、より安全側の評価を行うこととし、3 つの断層（約 90km）が同時に活動することを考慮いたします。また、海域につきましては、F - B 断層、F - D 断層、高田沖断層等 5 つの断層を主な活断層として評価いたしましたが、陸域と同様に安全側の評価を行う観点から、近接する F - D 断層と高田沖断層に関しましては、両断層が同時に活動することを考慮いたします。

当社といたしましては、今回の中間報告をもって、基準地震動の策定に必要な主要な地質・地質構造調査の結果について報告できたと考えております。現在、今回の調査結果を踏まえた基準地震動の策定作業を鋭意進めているところですが、今後、なるべく早くとりまとめ、国へ報告したいと考えております。

2 点目は、「免震重要棟の建設」についてです。

現在、当発電所では、中越沖地震における反省と教訓を踏まえ、災害時の対応力強化を目指した様々な整備・改善活動を進めております。こうした取り組みの一環として、これまで検討を進めてまいりました免震重要棟の建設について、このたび、工事計画等の概要がまとまりました。

免震重要棟は、建物と地盤の間にゴムなどの柔らかい部材を置くことにより地震のエネルギーを吸収する構造形式としており、今後、中越沖地震を超える震度 7 クラスの地震が発生した場合においても、建物の躯体が損傷せず、揺れも 1/3～1/4 程度に低減されます。主な機能として、緊急時対策室や通信・電源等の重要設備を配置する計画であり、本年 6 月より敷地造成工事を開始し、来年の夏頃には建物が完成する予定です。

当発電所といたしましては、今後も、こうした整備・改善に継続して取り組み、災害に強い世界に誇れる発電所づくりを進めてまいります。

以 上

添付)

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所 DATA・BOX
- ・ プレス公表（運転保守状況）

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成20年5月)

平成20年5月15日

発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況											補足説明
			6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第15回定期検査中 定検停止期間:H19.5.4~	第14回 H17.6.14 ~ H18.5.30 停止期間 H17.6.14 ~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第15回定検による停止											【2号機】 ・3月12日から4月29日にかけて圧力抑制室の点検準備および点検を実施し、ゴミ(テープ片など)やワッシャなどを回収。
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定検による停止											
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12 ~ H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定検による停止											
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9 ~ H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定検による停止											
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H18.11.24~	第11回 H17.7.4 ~ H17.11.2 停止期間 H17.7.4 ~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第12回定検による停止											
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第8回定期検査中 定検停止期間:H19.5.24~	第7回 H17.12.10 ~ H18.5.12 停止期間 H17.12.10 ~ H18.4.13 (125日) (原子炉起動H18.4.10)	第8回定検による停止											
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第8回定期検査中 定検停止期間:H19.11.15~	第7回 H18.8.23 ~ H19.1.11 停止期間 H18.8.23 ~ H18.12.5 (105日) (原子炉起動H18.12.2)	第8回定検による停止											

プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

発電所設備利用率(%) (4月末現在)

4月	0.0%
20年度累計	0.0%
運転開始後累計	72.8%

発電所発電電力量(万kWh) (4月末現在)

4月	0
19年度累計	0
運転開始後累計	80,191,836

ドラム缶発生量(本) (H19年度第4四半期)

当期発生本数	1
貯蔵庫累積貯蔵本数	22,378
貯蔵庫保管容量	30,000

使用済燃料貯蔵体数(体) (H19年度第4四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	12,372
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

構内従業員データ(人) (5月2日現在)

	東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	833	56%
	刈羽村	87	6%
	その他	86	15%
	小計	1,006	76%
県外	116	1,295	24%
合計	1,122	4,747	-
	5,869		100%
協力企業社数(社)	554		

「比率」について端数処理の関係で数値と計が合わない場合がある。

来客情報(人) (4月末現在)

	4月	年度累計
地元	2,464	2,464
県内	1,144	1,144
県外	1,375	1,375
国外	20	20
合計	5,003	5,003

今後の主なスケジュール

予定日	内容
5月22日	エアロピクス教室(柏崎エネルギーホール)
5月22・23日	第128回名画鑑賞会(柏崎エネルギーホール)
6月7日	笹だんご作り体験教室(き・な・せ)
6月12日	次回定例所長会見予定
6月18日	夏の花、寄せ植え体験教室(き・な・せ)
6月22日	環境・エネルギー講座 第1回「人とエネルギーの出会い」 (サービスホール)
6月26・27・28日	ピ・ズアクセサリー教室 〔柏崎会場〕6月26・27日(柏崎エネルギーホール) 〔刈羽会場〕6月28日(き・な・せ)
6月29日	TEPCO環境月間記念イベント エコから学ぶ、地球にやさしいライフスタイル(ラピカ)

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成20年5月15日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号 機	件 名	内 容
①	4月2日 4月8日	—	荒浜側焼却炉建屋排気口における微量な放射性物質の確認について（区分Ⅲ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月2日、荒浜側焼却炉建屋排気口において、粒子状放射性物質の定例測定を実施した結果、ごく微量のアルファ線を放出する物質が検出（1.3×10^{-10}ベクレル/cm³）された。なお、測定指針に定められている測定下限濃度は、4×10^{-10}ベクレル/cm³であり、検出された濃度はこれを下回るもの。 ・ 当該試料をアルファ核種分析装置を用いて分析した結果、アルファ線の放出は確認されたが、ごく微量のため自然放射線などと区別できず、核種は判定できなかった。 ・ その後、4月8日に実施した当該排気口における粒子状放射性物質についての定例測定の結果、あらたに、ごく微量のアルファ線を放出する物質が検出（1.2×10^{-10}ベクレル/cm³）された。検出された濃度は、測定指針に定められている測定下限濃度を下回るもの。 ・ なお、当該排気口における粒子状放射性物質についての定例測定では、その後、アルファ線を放出する物質は検出されていない。 ・ 毎月実施している原子炉水の放射能分析では、アルファ線が検出されていないこと、よう素131のガンマ線も検出されていないこと、および焼却炉建屋排気口では原子炉起因の物質（コバルト60やストロンチウム等）が検出されていないことから、コンクリートなどから放出されるアルファ線（自然放射線）を検出した可能性があると考えられる。 ・ ごく微量のアルファ線を放出する物質を検出した試料の採取期間中には、当該焼却炉建屋に通じる地下連絡通路内においてコンクリートの粉碎作業を実施しており、状況から推測すると、この作業に伴って空気中に浮遊した天然のアルファ線放出核種が測定用フィルタに吸引された可能性が高いものと考えられる。